

# 岩屋緑地のきのこ図鑑



## NO. 22 カエнтаケ

ボタンタケ科トリコデルマ属。和名は火炎茸。燃える炎のような形をした猛烈な毒を持つきのこ。毎年夏になるとテレビやネットで話題になり「赤いきのこに触らないで」と呼び掛ける。色は真紅。根元から太さ 1cm 程度の茎が何本か伸びていて、大きいもので高さ 10cm 程度。ちょうど人間の指のような形をしている。致死量わずか「3g」。非常に毒性が強いため触ることすら危険。カエнтаケは、ナラなどの広葉樹の伝染病の原因である「ナラ菌」を栄養としている。このため、枯れたクヌギやコナラなどの木の根元の周囲を取り巻くような形で生えていることが多いという。岩屋緑地でもナラ枯れの被害は急拡大しており、カエнтаケには要注意、絶対に触らないで。【写真：カエнтаケ】

\*\*\*\*\*

## あんな話 こんな話

### ライチョウ放鳥へ、駒ヶ岳に移送

環境省は令和 4 年 8 月 10 日、茶臼山動物園（長野市）と那須どうぶつ王国（栃木県那須町）で繁殖させた国特別天然記念物で絶滅危惧種のニホンライチョウ 22 羽を長野県の中央アルプス駒ヶ岳にヘリコプターで移送した。これは昨年 10 月 1 日発行の会報第 83 号の「50 年待ちに待ったひな」で紹介した記事の後日談である。22 羽は駒ヶ岳の山頂に到着後、すぐにケージに入れられた。翌 11 日には一時的に保護ケージの外に出され、自然の中へ一歩を踏み出した。環境に慣れさせる取り組みの一環。1 週間ほど「お散歩」を繰り返し、環境に慣れた順に放鳥する予定。野生の個体数を増やし群れの復活を目指す。同日公開された「お散歩」は、10 日に栃木県那須町の「那須どうぶつ王国」から移送された母子計 8 羽の様子。母鳥は周囲を見回しながら高山植物や岩場の合間をゆったり歩き、ひな 7 羽が「ピョピョ」と元気に鳴きながら懸命に追った。（中日新聞 2022 年 8 月 10 日、8 月 11 日の記事より）【写真：自然の中を「お散歩」するニホンライチョウ（中日新聞）】



\*\*\*\*\*

### 皇居へ続く行幸通りに

## 20階建て「国産木材ビル」

## あんな話 こんな話



東京海上ホールディングスは 8 月 1 日、東京・丸の内にて建て替える新本店ビルのデザインを公開した。柱や床に耐火性の高い国産木材をふんだんに使う。環境に配慮し、一般的なビルに比べて、二酸化炭素（CO2）の排出量を 3 割程度減らせるという。東京海上の本店ビルは、東京駅と皇居を結ぶ行幸通りに面している。新しいビルは高さ約 100メートルで、地上 20 階建て。デザインは、関西国際空港ターミナルビルを手掛けたイタリアの建築家、レンゾ・ピアノ氏の事務所が担当した。2024 年末に着工し、28 年度の完成を目指す。戦後植林された国産材の多くは利用期を迎えている。活用により、林業の再生につながることも期待する。（読売新聞 2022/08/01 11:30 より）【写真：読売新聞 東京海上ホールディングスの新本店ビルのイメージ（東京海上提供）】

### 編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」とい言葉も最近の気候にはそぐわなくなりました。梅雨が短く空けたら今度は猛暑。9 月には大雨。秋の気配は全くない。これでは秋の虫やきのこの活躍は期待できない。秋が無く冬が来るとも言われています。▼この号で扱う記事は 7 月から 9 月まで。この間イベントや学校行事が無く、活動もほとんどが草刈り作業で会報を飾る目玉が無く編集者泣かせ。▼この窮状を訴えたら有難いことに二人の会員さんが手を差し伸べてくれ 2P に「投稿」として掲載させてもらいました。感謝します。▼これを機会に皆さんからの投稿を積極的に掲載してゆきたい。ぜひ皆さんご協力をお願いします。（Y・M）